

令和2年度とみやわくわくミーティング意見集約

資料4

※複数あがった意見は太字で表示

テーマ	第1回			第2回			第3回		
	Aチーム	Bチーム	Cチーム	Aチーム	Bチーム	Cチーム	Aチーム	Bチーム	Cチーム
協働の進め方	・しんまち地区を中心とした取り組み	・目にする機会を増やす ・利用者や主催者側の声を載せる ・サークル登録 ・気軽に参加できるようなアピールを行う	・ 相談窓口をつくる ・知り合った人に思いを伝える ・共感した人としっかり時間をかけて話し合う ・お互いを認め合って、お互いができる範囲（＝無理をしない）で受け入れる ・自分たちの活動を市に伝える →市がそれぞれどんな活動をしているのか把握でき、情報を発信できる	・市の課題を情報提供する	・協働の在り方について確認する	・体験ツアーなどの富谷を知る機会を作る	・ 相談窓口の設置 →窓口があることをホームページにわかりやすく掲載する ・市民は常にアンテナを張り、情報を得る	・お茶会などでの世間話から活動を始める ・富谷全体を知り、課題や良いところを洗い出す	・市は市として、市民は市民としての役割を持つ ・市民が自立して行う活動を市が支援する ・市民同士が繋がったうえで市がパイプとして情報を広範囲へ発信する ・市民が市を良くしたいと思う自発性を持つ
協働の事例	・フードバンク ・ こども食堂	・お弁当配達 ・産後の支援（社協） ・ファミリーサポート（社協） ・地域コミュニティ（座談会） ・ こども食堂	・ 富谷塾 ・ 街かどカフェ ・小学校での読み聞かせ ・ Naritaマルシェ ・地域・学校・家庭をつなぐ取組	・ ベジシアとみや ・ゆるタイム ・ Naritaマルシェ ・町内会活動	・クリーン作戦 ・ ベジシアとみや ・ 富谷塾 ・ はちみつプロジェクト ・富谷茶復活プロジェクト	・西成田コミュニティ協議会の運動会や夏祭り ・合唱サークル ・戦争体験を伝える会 ・カレーライスを食べる会 ・同世代での共有会	・事例集を作り、相談先等を掲載する ・ 成田地区防災訓練 ・ 日吉台地区防災訓練 ・ 街かどカフェ ・各学校でのお祭り ・青年団活動 ・田植踊り ・公民館まつり ・ はちみつプロジェクト ・街道まつりでのランタンアート	・緑化事業（社協） ・竹あかり ・梅収穫 ・ 防災訓練	
サブタイトル	・「わくわく」というワードを入れる	・ゆるくはx → だらけるようなイメージがある ・市を愛する ・ゆるやか ・みんなで	・「ほっこり」というワードをいれる	・メインタイトルとサブタイトルを入れ替える ・「ゆるく」はゆるすぎる ・「指針」という言葉が堅い →「手引き」「ガイドライン」	・まちづくりの一員であるという自覚を持てるような言葉を入れる ・具体的な内容を盛り込む	・「ゆるくたのしくつながろうよ」 ・47地区を盛り込む	・つながる ・協働ってなに？ ・一緒に作る ・住みつけたいくなるまちづくり ・ わくわく	・昭和に戻る →近所づきあいや近くのコミュニティのつながりを大事にする ・地元の言葉や方言を盛り込む ・「わくわく」というワードを入れる →魅力が「湧く」+わく「わく」する＝「わくわく」	・市民が良い街にしていきたいという思いから成り立っていくということが伝わるタイトル
委員からの意見	<p><日諸委員> ・しんまちの住民をバックアップするように参加してもらい、その人達のモチベーションを上げる ・しんまちのマップのようなものを活用して周知する ⇒P13(1)①に包含</p> <p>・広報、SNS、ホームページで情報発信するだけではなく、具体的にどのように交流するかを具体的に伝える ⇒P10に反映、P13(1)②に包含</p> <p><北野澤委員> ・困った時に相談できる窓口があるとよい⇒P10に反映 ・活動の詳細をうまく情報発信する⇒P10及びP13(1)⑤に包含</p> <p><佐々木会長> 事例の取材で単にこの活動がどういう経緯でできたということだけではなく、具体的にどうやって進めたかを聞くとより深く伝えられる⇒今後、P8,9に反映</p>	<p><菅野委員> ・具体的な周知や窓口の情報発信も全世代に発信できるように、若い世代はSNS、年齢層高めの方には広報誌と、年齢層ごとに発信方法を分ける ⇒P13(1)⑤に反映</p> <p>・「ゆるく」の部分をわかりやすく、イメージしやすいような単語にする⇒タイトル案に反映</p>	<p><増田委員> ・大まかな情報を把握して伝えられる窓口があり、その窓口が報告書みたいなものの提出先になるとよい⇒P13(1)⑤及びP14(2)②アに包含</p> <p>・「つながる」と「共有する」の部分がだめだと失敗するので、この土台作りを強調するコメントを入れる⇒P10に反映</p> <p>・サブタイトルの最後に「協働」とあるが、協働ではなくて「まちづくり」に語尾を変えることも検討したほうがいいのか⇒タイトル案に反映</p> <p><佐々木会長> サブタイトルは思い切って強い言葉を入れてみるのもよい⇒タイトル案に反映</p>	<p><佐藤(怜)委員> ・市民へ情報が流れていないことが多いので市の方からも情報を提供し、お互いに情報を共有する⇒P10に反映、P13(1)⑤に包含</p> <p>・メインタイトルが堅すぎるので、サブタイトルとメインタイトルを入れ替え、市民が協働を知ってみよう、読んでみようとなるようなタイトルがよい⇒タイトル案に反映</p>	<p><菅野委員> ・まちを作る一員として子ども世代や学校との連携が大事である⇒P13(1)④に包含</p> <p>・クリーン作戦を地域コミュニティで協力して行っているということで、行政と市民ではなく、地域での市民同士の活動も必要⇒P4(3)②に包含</p> <p>・市民がどういった暮らしをしたいか意見を共有できるような場があったらよい⇒P10に反映</p> <p>・行政と市民だけではなく企業との連携も大事なのではないか⇒P13(1)②及びP14(2)①に反映</p> <p>・タイトルに「全員で」や「みんなで」というような市民ひとりひとりが市民協働を作る一員だというのを感じ取れるような文言と、具体的な協働の内容を示す文言を入れたいのではないか⇒タイトル案に反映</p>	<p><平岡委員> ・市から話が来ても町内会から会員に伝わっていないと、みなさんに参加していただけないので、もっといろいろなことに参加する場を設けたほうがよい⇒P13(1)①及びP14(2)②イに包含</p> <p>・何かをする時にどういう発信をして参加してもらおうかというところが課題である⇒P14(2)②の具体的な取組としていく</p> <p>・サークルや、お祭りなどを利用してみんなで関わって、つなげていけたらいい⇒P13(1)②に包含</p> <p>・サブタイトルは柔らかくてもよいのではないかと⇒タイトル案に反映</p> <p><佐藤(政)委員> ・まずは富谷を知る機会（バスツアーなど）を作り、富谷を知ったうえで何をしなければならぬかを考えていく⇒P10に反映、P14(2)②の具体的な取組としていく</p> <p>・タイトルはそのまま、サブタイトルを柔らかくすればいいのではないかと⇒タイトル案に反映</p>	<p><北野澤委員> 市民が参加したい活動の情報を気軽に簡単に手に入れられる方法があるとよい⇒P13(1)⑤及びP14(2)②アに包含</p> <p><平岡委員> 市民が思いや考えをつなげるために集まれる場があるとよい⇒P10に反映、P13(1)②及びP14(2)②イに包含</p> <p><村上委員> 何かやりたいと思った時にわかりやすい相談窓口があるとよい⇒P10に反映、P13(1)⑤及びP14(2)③アに包含</p>	<p><菅野委員> ・お茶会や世間話から始まる市民協働もあるので、お互いを知ったりつながったりする場の提供や事例集の作成など、いろいろな思いを反映させることを行政と協力して行う⇒P13(1)②及びP14(2)②の具体的な取組としていく</p> <p>・サブタイトルに主体はどこなのか、作っていくのは住民自身なのかということがわかるものを入れるとよい⇒タイトル案に反映</p> <p><佐々木会長> ・主体をどこに置かかは考えるポイントになる ・短命な活動を乱発させるのではなく、持続可能な組織、団体を作っていくという仕組みは盛り込む必要がある⇒P4(3)②に反映</p>	<p><増田委員> ・地域を良くしていくのは住民なのだという視点を盛り込む⇒P13(1)③に反映</p> <p>・それぞれの団体が報告書をあげて、市が吸い上げて情報をまとめる⇒P13(1)⑤の具体的な取組としていく</p> <p>・サブタイトルに主体はどこなのか、作っていくのは住民自身なのかということがわかるものを入れるとよい⇒タイトル案に反映</p>